

第6回高知の子どもたちの未来を拓く教育セミナー

サマーセミナー

新しい社会の形成に向けて、主体的に学ぶ子どもを育てる学校経営の推進

深い学びとは? 学校の当たり前とは? この二つの「問い合わせ」について、 一緒に考えてみませんか?

令和元年
7/27
土
9:00~16:50

会場

ちより街テラス(ちょテラホール)

〒780-0806
高知県高知市知寄町2丁目1-37
TEL:088-883-5444



※知寄町二丁目電停から徒歩2分
駐車場の台数が限られていますので、できるだけ公共交通機関を利用していただくか、複数名で乗り合わせてお越しくださいようご協力お願いします。

対象

教職員等教育関係者

定員

150名
(定員になり次第締め切らせていただきます。)

参加費

3,000円
(高知県公立校長・教頭会の会員は無料)

time schedule

9:00~9:05	開会行事
9:05~10:30	講演・質疑応答 『深い学び』で生かすシンキングツール ～アクティブな学びをつくる～ 関西大学総合情報学部 教授 黒上 晴夫 氏
10:45~12:15	講演・質疑応答 アクティブで深い学びのための仕組み ～ディープ・アクティブラーニング～ 京都大学高等教育研究開発推進センター 教授 松下 佳代 氏
13:30~14:45	講演・質疑応答 深い学びを促す授業デザイン ～『わかったつもり』を『わかった』へ～ 関西大学教育推進部 教授 森 朋子 氏
15:00~16:45	講演・会場とのトークセッション 学校の『当たり前』をやめた。 ～宿題もテストもない!公立中学校の挑戦～ 東京都千代田区立麹町中学校 校長 工藤 勇一 氏
16:45~16:50	閉会行事

講師プロフィール

『深い学び』で生かすシンキングツール ～アクティブな学びをつくる～



くろ かみ はる お
黒上晴夫 氏

関西大学総合情報学部教授
大阪大学人間科学部、金沢大学教育学部を経て、現職。ICTや教育放送の教育利用、カリキュラム開発、教育評価が専門領域。近年は、思考ループリックによる授業設計と評価、シンキングツールの体系化と普及など、思考にかかる領域での仕事に注力している。主な編著書に、「子どもに向きあう授業づくり～授業の設計、展開から評価まで～」(共著、図書文化社、2006)「シンキングツール～考えることを教えて～」(共著、NPO法人学習創造フォーラム、2012)、「考えるってこういうことか～思考ツールの授業～」(共編著、小学館、2013)、「子どもの思考が見える21のルーチン～アクティブな学びをつくる～」(共訳、北大路書房、2015)等がある。



アクティブで深い学びのための仕組み ～ディープ・アクティブラーニング～



まつ し た か よ
松下佳代 氏

京都大学高等教育研究開発推進センター教授
京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了退学。京都大学博士(教育学)。専門は教育方法学(特に能力論、学習論、評価論)。1990年代以降提唱されるようになった「新しい能力」(リテラシー、コンピテンシーなど)や学校・大学でのその形成のあり方について、カリキュラム・授業・評価などの点から批判的に検討し、中高や大学の教員と一緒に、実践をふんだんに理論の構築をめざしている。主な役職として、日本カリキュラム学会代表理事、大学教育学会副会長、日本学術会議会員、中央教育審議会教学マネジメント特別委員会委員等を務める。主な編著書に、「パフォーマンス評価」(日本標準、2007)、「新しい能力」(教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー)(ミネルヴァ書房、2010)、「ディープ・アクティブラーニング」(勁草書房、2015)、「アクティブラーニングの評価」(東信堂、2016)、「Deep Active Learning」(Springer、2017)、「深い学びを紡ぎだす—教科と子どもの視点からー」(勁草書房、2019)等がある。

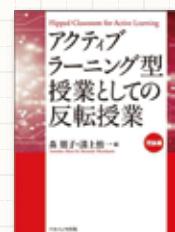


深い学びを促す授業デザイン ～『わかったつもり』を『わかった』へ～



もり とも こ
森 朋子 氏

関西大学教育推進部教授
ケルン大学哲学部Magister修了後、大阪大学言語文化研究科前期・後期課程修了(言語文化博士)。専門は、学習研究、学習理論で、人がどのように学ぶのか、学びのメカニズムとプロセスを解明し、その知見を教育現場に活用する学習研究を行っている。島根大学准教授を経て現職。主な役職として、文部科学省中央教育審議会臨時委員(大学分科会)、同学生調査の実施に関する有識者会議委員、同教育再生加速プログラム委員、東京大学情報学環反転学習社会連携講座フェローなどを務める。主な編著書に、「アクティブラーニング型授業としての反転授業【理論編】」(共編者、ナカニシヤ出版、2017年)、「アクティブラーニングの技法・授業デザイン」(共著、東信堂、2016)、「ディープ・アクティブラーニング」(共著、勁草書房、2015)等がある。



学校の『当たり前』をやめた。 ～宿題もテストもない!公立中学校の挑戦～



く どう ゆ う いち
工藤勇一 氏

千代田区立麹町中学校長
1960年 山形県鶴岡市生まれ。東京理科学院理学部1部応用数学科卒業。山形県公立中学校教員、東京都公立中学校教員、東京都教育委員会、目黒区教育委員会、新宿区教育委員会教育指導課長を経て、2014年から現職。主な役職として、経済産業省「未来の教室とEdTech」研究会委員(2017~)、内閣官房教育再生実行会議委員(2018~)等を務める。学校教育を本質から見直し、学校運営に全教職員、生徒・保護者を当事者として巻き込みながら、形骸化した教育活動を徹底的にスクラップし、再構築している。定期考査や宿題の全廃、固定担任制の廃止などを実行。著書の『学校の「当たり前」をやめた。』(時事通信出版局、2018)は、マスコミ等にも取り上げられ、全国の教育関係者から注目を集めている。



参加申し込み

7月5日(金)までに、大豊町中学校 校長 川崎剛までFAX又は電子メールでお申し込みください。

FAX 0887-72-1221

E-mail otoyocho-j@town.otoyo.lg.jp

所 属	職 名	参加者氏名	連絡先(電話)